

地域と学校 その16 建設委員会を終えて

いしぐれ
石榑小学校ではこの8月に2度の登校日がありました。1回目は広島への原爆投下の日。学校で戦争と平和を考えるビデオを見たり、当時を知る方からのお話を聞きました。2回目はお盆開けの日曜日。「ピカピカ大作戦」と題して、子どもたちと保護者、そして地域の方々が一緒に、校舎や校庭の一斉清掃です。新校舎完成前から続く恒例の行事ですが、生徒と保護者がほぼ全員参加し、2時間の作業で見違えるようにきれいになりました。その校庭には赤とんぼが舞い、秋の訪れを告げていました。

さて今回は、建設委員会終幕の様子と、委員の方々の感想をご紹介します。

建設委員会の終幕

屋外環境の工事が終了した頃、嬉しい知らせが届きました。石榑小学校の新校舎が2006年度の中中部建築賞を受賞したのです。学校建築としての内容だけでなく、地域が主体になって構想を立ち上げ、練り上げ、実現した点が評価されたという報告がありました。

そして、2007年3月9日、建設委員会5年目の最後の委員会の日を迎えました。「この日が最後です」とは言われていなかったのですが、5年目にして工事が全て完了し、年度内の最後の委員会ですので、なんとなく、最後の建設委員会になりそうな予感がしました。

予想通り、工事完了を受けて、建設委員会としては一旦、終了することが確認されました。そして、2005と2006年度の2年間、コミュニティスクール研究校として、石榑の里共有委員会を中心に各種の取り組みを試行してきましたが、新年度にはよいよコミュニティスクール（地域運営学校）として市から指定されることになりました。石榑の里共有委員会がコミュニティスクールの経営会議である学校運営協議会に移行し、この委員会を中心に新校舎を舞台にあらたな学校づくり、地域づくりに取り組むことが確認されるとともに、建設委員にはこの委員会や附属するボランティア部会への参加が要請されました。

委員の方々は、次のステップへ頭が切り替わったようですが、これで契約が終わり、公式な関係がなくなる設計事務所の2人は寂しげです。帰りの車の中で、「終わっちゃいましたね・・・」とボツリ。請け負った仕事以上の思いが2人にもあったと思います。石小、そして石榑の100年の歴史の一コマに参加したいという気持ちだったのでは。



戦争時の石榑の様子を聞く（2008年8月6日）。建設委員でもあるHkさんが1日講師です。

小松 尚（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

5年間の建設委員会を振り返って

さて、私は、ある時からこの新校舎建設にまつわる一連の取り組み、そしてそこに至る経緯を記録に残しておきたいと思うようになりました。

そこで、まずは建設委員会が終わりを迎えるにあたって、私から委員の皆さんに、この5年間の振り返る感想文をお願いしました。ただお願いしても大変だと思い、①完成した新校舎についての率直な感想、②ワークショップという議論の方法に関する感想、③これからの利用や運営についてのアイデア、④石榑小学校への思い、の4点をお願いしました。16名の方が提出してくださいましたが、どなたも紙面にびっしりと書き連ねてくださいました。

(1) 完成した新校舎について

出来上がった新校舎については、誰もが「いい学校ができた」という満足感や達成感を記していました。教室と廊下の間に壁のないオープンスクールになったわけですが、茶畑を模したポルト屋根からハイサイドライトを取ることもでき、とても明るい教室になっていることを多くの委員が評価していました。また、自ら交渉して手に入れた敷地ですが、その敷地と校庭と4mのレベル差が上手く活用され、中庭をはじめ学校の特色になっている点を喜んでいました。

一方、旧校舎がなくなり、山々に校庭が直に面することで、吹き降ろす風による砂埃の問題は、計画段階でも心配されました。完成しても「大丈夫かな?」という声がありました。そういう目で見ると、確かに今年の8月17日の「ピカピカ大作戦」や毎月第3日曜日の地域清掃日には、昇降口周りは入念に掃除されています。



旧校舎の頃から続く年に一度の「ピカピカ大作戦」（2008年8月17日）道具や軽トラはすべて自前です。

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
新校舎計画の体制	7月 住民と行政による新校舎建設委員会発足	設計事務所を交えた新校舎建設委員会～2007年3月まで53回開催	文部科学省「コミュニティ拠点としての学校施設整備に関するパイロットモデル研究」対象校に指定					
計画と工事	新校舎の構想	学校全体と新校舎計画（第1～19回） ●新校舎建設委員会メンバーの住民と地権者との交渉 →旧小学校敷地東側の土地を買い足し	体育館・プール建設計画と管理運営計画（第20～36回）	12月 新校舎工事	7月 体育館・プール工事	3月 屋外環境計画と管理運営計画（第37～47回）	8月 10月 屋外環境工事	
地域運営とコミュニティスクールの体制						石榑の里共有委員会 文部科学省「コミュニティスクール推進事業の委嘱校」指定	コミュニティ・スクール	●竣工式 ●里まつり ●体育館竣工式 ●1000人集会 ●100周年式典 ●旧校舎お別れの会

新校舎建設からコミュニティスクールへ至る経緯
今年（2008年）は構想から数えると、9年目になりました。

また、太陽熱や雨水、風力の利用などエコスクールとしてのアイデアをもっと盛り込んでもよかったという意見もありました。愛知万博が終わったばかりということもあったでしょう。

みんなが心配した学校のセキュリティについてはどうでしょう。「1階も2階も地面に接しているので、有事の際には逃げ出しやすい」や「教室がオープンなので逃げやすい」と、完成した校舎を見て安全面を心配する声は聞かれませんでした。

(2) ワークショップという議論の方法について

今回初めてワークショップという方法で議論をしました。そのメンバー構成については、年代や仕事（立場）を超えてたくさんの方と話ができたことを多くの方が評価していました。委員会の進め方についても、「子どもたちのことを考え、議論できた」「みなさんの思いに触れられた」「意見が反映されたことは嬉しく思うとともに、やりがいがなくなった」などなど。「できないことも少しでも思いが反映できる形を議論した」「それぞれの思いを十分に出し合い、皆で決めていくんだ」という住民が主体の議論の仕方を評価する人もいました。中には、「校舎完成よりもこの取り組みのプロセスが本当に素晴らしい」と記す方も。私も、途中から参加するようになった方から、夜な夜な議論していると聴いて大変だと思っていたが、参加してみたらそんなことはなく、楽しかったという声を聞きました。

でも、中には「年代の違う皆様の中で意見を言うことは難しかった」「グループに分けて、意見交換や討論する時間ももっとあったら」という感想もありました。さらに2回の公開ワークショップが開催されましたが、「広く地域との接点、地域の隅々までという点ではもう少し機会を持ちたかった」という反省を記した方もいました。

さらに、建設委員会に参加することをきっかけにして、「この学校に愛着がわき、子どもが卒業した後もずっと見守っていきたいという気持ちになった」とか、「（旧校舎の顔末など）たくさんのことを教えていただいた」と記す方がいました。

一方、毎回の議論の進行は設計事務所の2名が中心に行ったわけですが、この点についても、「親身になって進めてくれた」「自由に議論ができて満足」「毎回の進行には感心した」という声も並びました。

(3) これからの利用や運営について

「もっと地域に宣伝し、理解を得ていく活動が必要」や「地

域で活動している団体の意見を吸い上げ、発信していく」と、地域への理解を深め、意見を募る必要性が指摘されています。その一環で、子どもたちが学校の催し物の案内を各戸に届ける「お届け隊」の活動が始まりましたが、現在では学区の半数近くの600戸以上へのお届け実績があります。

また、「交流が1回だけでなく1年間通して持続的に参加できる活動」や「継続的に毎年取り組めるような活動」の必要性を訴える意見もありました。前者については毎週水曜日のわくわくスクールや毎月第3日曜日の地域清掃などが行われ、後者については毎年秋に地域と学校が一緒になって企画するイベント「石榑の里まつり」が続いています。ちなみに今年は11月16日に開催されます。

建設途中に新校舎の構想を各自治会に説明しに回った方からは、「大きな取り組みでなくても数多く何かを催し、まず地域の人が学校に慣れ親しむことだ」とか、「あまり難しく考えないで、気軽に企画実行の繰り返しでいい」という意見が寄せられました。校舎のように数年で出来上がるものではなく、何年もかけて築きあげていくんだという、覚悟のようなものを感じました。

さらに、「地域の方に参加していただくこと、ボランティアを募るのは難しい」「育友会（PTA）の役員だけでなく、みんなで取り組みながら少しずつ広げたい」という、少し本音を帯びた声もありました。

(4) 石榑小学校への思い

これは上手くまとめることができそうにないので、列挙することにします。

新築の頃の旧校舎に生徒として入った感激を今に重ねながら、新校舎で学ぶわが子と石小への思いを語る方、旧校舎で勉強している横で父兄が一輪車を引いて校庭整備に汗を流していたことを振り返る方、建設委員会を通して改めて地域とのつながりを持つことへの喜びを語る方、100年後の学校に思いを馳せる方、開放的ゆえに安全で地域の核となることを祈念する方、小さくても自分のできることを見つけて取り組んでいこう!と宣言する方、学校の賑わいが新しい石榑を創っていくんだと考えている方・・・

地域の思いをこの新校舎の完成と、この学校の将来に重ねていらっしやるのがよくわかる文章ばかりでした。